

中日韓の関係は改善できるか？

環球時報 2017-01-25 19:17:00 (抄訳)

阿部信行

(訳者コメント)

中国環球時報に、日中韓の関係改善に関する提言が掲載されましたので紹介します。

要約すると、現在、お互いにいがみ合っている日中韓は、トランプの攻勢に対抗するため団結しよう、という趣旨です。抜けがけはやめようということです。内容は、正論の部分もありますが、中国としては従来の国益ゴリ押しを一時引っ込めるので、協議のテーブルに着いてくれと主張しています。このままでは中国は孤立すると踏んでいるのでしょう。

日本の安倍首相は 25 日、参議院で次のように述べた：今年は中日韓首脳会談が早期に実現できるよう努力する、と。この会談は本来昨年実施することになっていた。しかし朴槿恵大統領の”密会”問題が露見し延期されていた。日本の外交情報筋は：安倍政府は 2 月 10 日前後に東京で中日韓首脳会談を開催することを希望し、中韓に意見を求めている、と述べた。

日本のメディアは：日本政府は、この首脳会談で中日韓の経済協力を強化したいと願っている、と報道した。このほか、今年は中日国交正常化 45 周年にあたる。安倍は、今年再度の訪中が実現するよう希望しており、また中国の指導者と東シナ海の緊張緩和を図りたいと思っている、と。

日本側が上述の消息を知らせたそのとき、トランプは、正式に大統領に就任し、米国の TPP 脱退の大統領令に署名した。日本は、トランプ新政権の厳しい圧力を最初に受ける国家であることは皆が認めている。日本は TPP にひたすら希望を抱いてきたからだ。現在、途中で放り出された状態にある。また米国は、在日米軍の駐留経費の分担割合の増加を求める可能性があり、この次第では日米関係が新たな位置づけとなる可能性もある。そのほかワシントンは、東京と両国間の貿易交渉を行って、後者に貿易上の譲歩を促す等々の可能性もある。

安倍はこのとき中日韓首脳会談の情報を流したが、これは”トランプに見せる”ための可能性がある。安倍はこの 2 月副首相及び外相を率いて訪米し、トランプに会う予定である。また米国防長官は 2 月に日本を訪問する予定である。そのとき安倍は口先だけの約束は得られるであろうが、トランプ政府は高姿勢で、東京が受ける感情など少しも顧慮することなく、日本の世論を激震させるだけでなく、安倍とその同僚たちに大きな屈辱感を与えるに違いない。

韓国は、米国から”目下のもの”に扱われてきた。韓日は、完全に米国に投降し、自己の自由な戦略空間を放棄した。現在、日韓とワシントンの関係は、冷

戦終結以来最も脆弱無力の時期にあるといえよう。

日韓は、明らかに中国との関係を改善することによって戦略環境を良くすることができる。實際上、中国もまた米国から長期にわたり圧力を受けてきた。中日韓の協力を強化することは、中国の外交戦略の弾性を増加することである。最近の数年間、中日は外交上の対立を形成してきた。昨年以来、中韓関係も緊張の趨勢にある。日韓関係もまた暗雲が立ち込めている。これは米国が東北アジアに気ままに出兵できる環境であり、いわゆる米国の” 離岸平衡” が可能になり、中日韓三国にとって高い外交コストを払うことになる。

しかしながら中日韓の関係緩和が直ぐできるというのではない。三国には戦略上の信頼感がなく、歴史的な紛糾がある。領土争いの規模は大きくはないにしても、ここ数年大騒ぎになっている。朝鮮の核問題もコントロールの効かない変数である。最も重要なことは、日韓が米国の同盟国であり、両国は米国の軍事的保護がアヘン中毒のような習慣になっていることだ。

たとえそうであろうとも、中日韓が戦略的協議を行い関係強化を試みることは十分必要である。とりわけ中日間は目下公然たる対立状態にあるが、双方の努力を経て、一定の関係緩和を確保することで空間を見つけることができる。このことが両国外交を増やし、その他の方面の動きに良い影響を与えることになる。

中日韓関係の根本的改善は、一時不可能であった。しかしにっちもさっちも行かなくなった場合、一時棚上げすることでかえって進展する場合がある。現在、地区全体の友好的な部分を積重ねた上で、三方が関係改善の政治的意思を明確にする必要がある。中日関係は、東北アジア地区の雰囲気全体に決定的影響を及ぼす。45年前、中日国交正常化の時の大転換は、両国の発展友好協力が如何なる障害も突破できることを示している。最も重要なことは、両国がこの方面で共通の意志を持つことである。

現在の状況から見ると、もし日本政府が歴史問題で厳しい挑戦的な行動をとらなければ、中日両国は釣魚島問題で抑制的態度を採り、双方の関係が再び緩和に向かう基礎的条件が整うことになる。

中日は、共同で善意と協力の新局面を作り出す必要がある。双方が相手方の善意の信号に積極的に対応したならば、両国のメディアがそれらを十分報道したならば、相手の一つ一つの善意を尊重し、奨励することになり、中日間の氷河は融け出す。

中日関係が正常に戻れば、北京と東京にとっては、大きな知恵の見せどころとなり、その生み出す影響はおおきい。

日本の一部勢力が誤った歴史観を堅持し不断に禍をもたらしている。中日関係の改善は、むつかしいかも知れない。しかし改善を始めさえすれば、新たな趨

勢を形成し、現下の東北アジア各国にとって不利な地縁政治の枠組が柔軟な雰囲気になろう。

このような外交関係改善は、不確実性があることを我々は知っている。しかし中日韓にとっては未来に向かって真剣に考慮する価値が有る外交戦略である。指摘しておくべき一点は、安倍政府は、過去に、口では言うが行動に移さないという強い印象を受けた。日本に対しては、中韓と真剣に破冰の策を検討し、有言実行であることを希望する。

以上